

研究課題: 日本におけるエアロビックダンスの導入過程に関する研究
— ジャッキー・ソーレンセンによる普及活動に着目して —
研究代表者: 張 巧鳳

キーワード: エアロビクス、エアロビックダンス、ジャッキー・ソーレンセン

1. 研究意図

歴史を遡ってみると、健康づくりの必要性が訴えられはじめた 1980 年代前半には、アメリカで考案されたエアロビックダンスが日本へと導入された。これまでに、日本におけるエアロビックダンスの導入過程について取り組んだ研究¹⁾を振り返ると、これらの研究および雑誌記事は、いずれも日本におけるエアロビックダンスの導入を明らかにしているが、一次資料蒐集が乏しいため、エアロビックダンスの考案者であるジャッキー・ソーレンセンの日本での活動について未だに完全に解明できていない。

そこで本研究では、1980 年代にエアロビックダンスの考案者ジャッキー・ソーレンセンがどのようにエアロビックダンスを日本へ紹介したかを調査し、日本におけるエアロビックダンスの導入過程の全貌をより系統的に明らかにすることを目的とする。

2. 主な史料

この課題に取り組むにあたり、本研究では、研究対象とする期間である 1970 年代から 1980 年代初め頃の新聞や雑誌を主な史料として用いた。また、日本におけるエアロビックダンス導入の実際について、日本国内及びアメリカにおいて次の 3 回にわたって当事者にインタビュー調査を実施し、史料の提供を受けた。

(1) 2014(平成 26)年 7 月 23 日に公益社団法人日本フィットネス協会事務局にて長谷川勝重氏(公益社団法人日本フィットネス協会事務局長)と池田美知子氏(公益社団法人日本フィットネス協会業務執行理事)に対するインタビュー調査

(2) 2015(平成 27)年 3 月 18 日にオハイオ大学近くにてクリスティン S. マッテ氏(ジャッキー会社社長)に対するインタビュー調査

(3) 2015(平成 27)年 4 月 10 日に上智大学にて師岡文男氏(上智大学教授)と池田美知子氏(上智大学非常勤講師)にインタビュー調査

3. 研究結果

本研究では明らかにした内容は以下の三点にまとめられる。

(1) 1980 年代初期におけるエアロビックダンスの移入に伴い、“エアロビクス”“エアロビックダンス”の言葉混同が発生した。二つの言葉が混同するようになった要因は、エアロビックダンスの移入過程においてエアロビクス理論が理解されないまま「エアロビックダンス」を指す言葉として「エアロビクス」を使用したためであった。「エアロビクス」と「エアロビックダンス」言葉混同が今日でも存在している。

(2) ケネス・H・クーパーが提唱しているエアロビクス理論がエアロビックダンスの理論基礎であるが、数多いプログラムの中で、クーパーが公式的に認めたのはジャッキーのエアロビックダンシングであった。ジャッキーが世界初のエアロビックダンスプログラムであるエアロビックダンシングを考案し、今日まで 3 ヶ月ごとに振付を更新し、契約を結んだ会社にプログラムだけを提供するというジャッキー会社の独特な経営方法を用い²⁾、ロビックダンシングのオリジナリティを保ってきた。その一方、DVD が発売しないことやほかのエアロビックダンスプログラムの増加に伴い、エアロビックダンシングの愛好者が少なくなっている。

(3) 日本におけるエアロビックダンスの移入、展開過程は大きく分析すると、三つのパターンに分けられる。その一は、ジャッキーが考案したエアロビックダンスのように、アメリカで誕生し、そのまま日本で受け継がれているエアロビックダンスプログラムがある。第二に、アメリカで誕生したほとんどのエアロビックダンスプログラムが日本国内に導入されると、スタジオが中心となるエアロビックダンス業界は長い歳月をかけて日本のエアロビックダンスを作り上げている。三つ目はエアロビックダンスを一つのスポーツ、あるいは一つの競技である「エアロビック」として捉えて発展させていった。